


緑の風


最高裁判所 & 国会議事堂 & 東京国立近代美術館


1月26日に6年生は、最後の社会見学に行ってきました。
直前までインフルエンザ大流行で学級閉鎖になるクラスもありましたが、無事実施されました。
国の大事なことを決める政治の世界と洗練された芸術の世界。一体どんなところだったんでしょうか？



最初に行った最高裁判所は、国の司法の最高機関というだけあって、建物に入る前から緊張気味な子どもたち。裁判の仕組みについての説明を受け、最高裁判所では年に5回しか裁判が行われないことや、裁判が5分で終わることに驚いていました。次に訪れた国会議事堂では、「安倍首相いるかな?」と一生懸命探しましたが、やはり見つからず…。衆議院議場はテレビで見る光景そのもので、厳かな雰囲気を楽しみました。最後は東京国立近代美術館へ。グループに分かれて、美術館のスタッフの方と絵や彫刻の鑑賞を行いました。子どもたちは、自分が作品から感じたことが友達と違っていたり、見る角度によって見方が変わったりすることに気づき、楽しく時間を過ごしていました。また、事前に学校で鑑賞をしていた「南風」(画家の和田三造の作品)は、本物から感じられるパワーに圧倒されていました。

 近代美術館に、授業で習っている歴史の絵があって面白かった。(F.Mくん)

 国会に行って印象に残ったことは、壁などに周りが施されていて、芸術作品のようだったことです。とくに天皇家が休憩する部屋がとても豪華でびっくりしました。(U.Oさん)



なるほどなるほど



最高裁判所では驚きの連続



ふむふむ

東京国立近代美術館で美術館のスタッフの方と絵や彫刻の鑑賞





ランチルームにスペインの風が吹く

～本物にふれよう講座「フラメンコ」～

みんなで掛け声 “オーレ!!”



2月16日、緑が浜小学校区青少年育成推進協議会主催による、「本物にふれよう講座」が開催されました。フラメンコを見るのは初めての子どもたちも多かったようですが、フラメンコ奏者とダンサーによる情熱的なステージに、子どもたちはすっかり惹きつけられていました。二人の男性奏者によるギターでの弾き語りから始まり、鮮やかな衣装を身にまとった四人のダンサーたちが登場し、会場は一気にフラメンコの世界に包まれました。フラメンコの踊りを教えてもらう場面では、恥ずかしがってなかなか出てこなかった子どもたちでしたが、一人二人と前へ出ると続いて一気にたくさん子どもたちがステージに上がりました。

フラメンコの演奏にはフラメンコギターを使うよ。



カスタネットやアバニコ(扇子)を使って踊ります。



ステージに上がって大盛り上がり！フラメンコのダンスを教えてもらいました。

情熱的な歌とダンスに釘づけ。



3-2 T.Y.くん

ギターがかっこよくて、唄と踊りとギターが心でコミュニケーション取りながらやってる感じがスゴイ！って思った。



1-1 H.M.さん

フラメンコを初めて見て、楽しかった。衣装が綺麗だった。カスタネットの持ち方が学校の音楽の時とはちがった。前に出て教えてもらうのはちょっと緊張したけど、面白かった。床の板がポコポコになって、いっぱい踊ると地面が壊れそうだなと思った。

「アラート（全国瞬時警報システム）の訓練を終えて

1月31日(水)、神奈川県下一斉の「アラート」音声再生訓練が行われました。それに呼応して、茅ヶ崎市では防災無線を使った音声訓練を行うと共に、公立の小・中学校でも訓練が行われました。朝11時に開始ということでしたが、校内には全くアラート音が聞こえないまま、子どもたちは戸惑いながらもロッカー付近でダンゴムシの態勢に、「北朝鮮がくるの？」と子どもから心配する声も聞かれました。数分で訓練は終わり、通常の授業へと戻りました。

「アラート」弾道ミサイルのように思われがちですが、実は11種類もの音（津波や地震、火山噴火など）があるそうです。その中で今回の訓練で鳴った音は、弾道ミサイル以外にも①航空機攻撃、②ゲリラ特殊部隊、③大規模テロ情報、などの情報が含まれているということです。では、どうして「弾道ミサイル」に特化した訓練になったのでしょうか。日本と朝鮮半島の歴史、アメリカと北朝鮮の関係などを子どもたちに伝えることなく訓練を行うことは、無用な偏見や差別意識を刷り込んでしまうことにならないかと心配になりました。

訓練後、西片校長先生と小野教頭先生に話を伺いました。「今回は県下一斉の訓練ということで、茅ヶ崎市内の小学校でも訓練を行いました。県内の公立小・中学校で訓練を行ったのは茅ヶ崎市と座間市のみ。自治体によって対応が違うことを直前になって初めて知りました。」(西片校長)

「ミサイルが落ちるとき、建物の中に避難してダンゴムシのポーズをしたぐらいで助かるのか、といった単純な疑問もっていました。そして頭によぎったのは、防空壕のイメージです。緑が浜小学校の体育館へ行く地下通路に全校児童が入るか真剣に考えていました。私の世代は、親が戦争を体験しており、折に触れて戦争の悲惨な状況を聞かされていました。一つの価値観に縛られていくことに疑問をもたず麻痺していく感覚と、何も食べる物が無い辛い体験はとも恐ろしく、今の時代を生きている自分がいかに幸せなのか教えられました。訓練を終えて思うことは、憎しみを生まないようにしたいということです。憎しみは、差別につながります。今回のことで外国につながる方の中には、その人が悪いわけではないのに責められ、肩身の狭い思いをしている方がいるかもしれません。では、このことも含めて「人権」について学校で子どもたちに考えさせていたかという点も弱いです。今回のことをきっかけに、「人権」について子どもたちと考えていきたいと思います。」(小野教頭)

平和な世界を未来に残していくために私たちができることは何だろうか、子どもたちと考える一歩になることを心から願っています。



携帯、スマホ、DS…。他のおうちでは、どうしているの？！

PART2

～ネット社会の低年齢化の問題について～



12月8日(金)毎年5、6年生を対象に開かれている「情報モラル教室」が、ランチルームにて行われました。講師としてお話をしてくださったのは、神奈川県警の笠倉さんと、茅ヶ崎警察署の日ケ久さんのお二人。スマホを持った時の注意事項や、親子の間でのルールづくり、そして、SNSに絡む様々な犯罪の実例など、スライドを使って、とても分かりやすくお話していただきました。子どもたちも、とても熱心に、そしてスマホの危険性についても、思っていた以上に理解していました。

◆スマホを使う際の注意事項◆

- ・ネットの情報の信憑性。
- ・大切な話は直接会って話す。
- ・SNSに場所を特定できるような写真は、ストーカー被害などの危険性があるので載せないように。
- ・LINEなどで何かを発信する時は、ちょっとした誤解を招きやすいので、ひと呼吸おいてから送りましょう。

子どもたちの後は、保護者向けのお話もありました。

「責任力・自制力・判断力」がきちんと身につくまでは、機械は、「親が貸し与えているものである」ことを子どもに伝え、必ず親が管理(ペアレンタルコントロール)し、フィルタリングをかける！

ということを強調されていました。

ここでも、やはり持たせる以上は、子ども任せにすることなく、明確なルールを設け、親が管理することが重要であると強調されていました。



先生！質問です！



今年度2年2組の担任となった飯田福実先生。学校卒業後は、鎌倉の小学校で2年生を担当し、今年度の新採用で緑が浜小学校へ赴任されました。先生としてスタートをきった飯田福実先生にインタビューしてきました。



先生になりたいと思ったきっかけは何ですか？



小学校6年生の時の担任に憧れて先生になりたいと思いました。しかしその反面、頼りになり、そして友達のように相談できて…。そんな先生に憧れました。



先生の好きな教科はなんですか？



算数ですが、みんなとやる図工や音楽も大好きです。



初めてクラスを受けもってみてどうですか？



子どもの成長が近くで見られることが、とてもうれしいです。毎日いろんな事があり、たくさん経験ができることを幸せに思っています。



後期も残すところあと少しですが、「ここまで過」こしてきて、緑が浜小学校の印象はどんな感じですか？



子どもたちは元気で明るいです。2年生以外の学年の子どもたちも名前を覚えてくれてあいさつしてくれたり、話しかけてくれます。とてもうれしいです。



最後に飯田先生が、これから先生として目指していきたい事はありますか？



子どもたち、保護者の方々、職員の方たち、いろんな人とかかわり、汗まみれ泥まみれになりながら、体を使って同じ事を感じていきたいです。

飯田先生は、現在、週に一回校内研修と、月に一回の校外研修をされています。限られた時間の中で授業と研修で忙しいと思いますが、緑が浜小学校でたくさん経験を体感して、先生の目指すところへ向かっていっていただきたいです。

飯田福実先生、ありがとうございました！



飯田福実先生



小さなつながりガ子どもたちの安心に

大雪が降った1月22日の朝。思わず体が縮むような冷たい空気の中、子どもたちが緑小へ登校してきました。交差点へ差し掛かると、「おはようございます！」と元気な声がかかります。見守り隊のみなさんが、子どもたちに声をかけながら、安全を確保してくださっています。

お話を伺うと、お子さんが卒業されても見守り隊を続けてくださっている方もいらっしゃるそうです。地域ぐるみで子どもたちを見守ってくださっているあたたかさを感じます。込み入った話をするわけではありませんが、あいさつを交わすという小さなつながりが、子どもたちが安心して地域で過ごせるきっかけになっていることを感じました。

見守り隊のみなさん、いつもありがとうございます！



見守り隊・G代表
諸野さんより



緑が浜小学校のP・G・T活動の一環として見守り隊があります。メンバーは在校児童及び卒業児童のGが主体ですが、地域の自治会にもご協力を頂いております。

- (1) 挨拶の励行
- (2) 安全の確保

地域で緑小の児童はきちんと挨拶をするという評価をいただいているのは誇らしい事です。挨拶をきちんとし、年を追うごとに成長していく生徒たちを目の当たりに見守っているのは本当につれしい事です。

Gの活動ですから毎日は無理ですので、毎週月曜日を活動日として、15名のメンバーが2組に分かれ隔週分担をしています。メンバーに限らずPの方々も参加していただいています。

さあ皆さん一緒に朝の登校時には元氣よく「お早うございます！」

P・G・T.保護者親睦会

世界にひとつだけの革細工

昨年大好評だったレザークラフト。今年も参加者が総勢43名と大人気でした。浜竹でレザークラフトのお教室されている「てしごと屋 happa」の坂本先生とお教室の生徒さんたちのご指導のもと、楽しい雰囲気の中にみなさんの真剣さも伝わる時間でした。4つ作品があり、申し込みの多かった順番で紹介합니다。

- 1位 かばん
- 2位 ウォレットケース
- 3位 キーホルダー
- 4位 スリッパ

最初に選んだ作品が時間内に作り終わり、まだ作りたという人は、「おかわり」と言って追加で作ることが出来ました。その「おかわり」をしている方もけっこう見られました。作りはじめると楽しくてもっと作りた!という気持ちがででくるようです。あつという間に時間は過ぎ、今年度の保護者親睦会も大盛況で幕を閉じました。完成した作品を手に、満足度の高い表情で帰っていく姿がとても印象に残っています。趣味といえる何かを始めたいと思っていた私は、これを機に革細工はじめてみようと思います。坂本先生、お教室の生徒のみなさま、そしてP.G.T.役員のみなさまありがとうございました。



編集後記

今年度も最後の「緑の風」となりました。卒業される6年生のみなさん、進級される下級生のみなさん、それぞれ緑小で過ごした時間をお祝いいたします。1年生と6年生を見比べるたびに、小学校での6年間の成長は、人生の中でも特別大きいと感じます。何気ない1日1日も、たくさんの発見や体験で満ちていて、その積み重ねで心も体も大きくなっていくんですね。そんなかけがえのない時間を垣間見れるのが広報ボランティア。少ないメンバーながらも、バトンを来年につなげることができました。ご協力くださったみなさま、本当にありがとうございます。来年一緒に活動して下さる方をお待ちしています。そして、「こんなことが気になるよ」という声もどうぞお寄せください。

